

2 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

■学修領域（教育分野）

- ①物質化学分野
- ②環境・エネルギー分野
- ③生命科学分野
- ④食品分野

■カリキュラム編成の基本方針

地球上の様々な環境問題が深刻化する今日において、本学科では、物質化学、環境・エネルギー、生命科学、食品の4つの分野に関して適切な化学的あるいは生物学的なアプローチを用いて問題解決する能力のある、自立した技術者を育成するための教育を展開する。そのため、専門科目を理解するための基礎科目を確実に身に付けた上で、講義、演習、実験を通して環境技術の幅広い基礎知識と理論を体系的に学び、実験や卒業研究を通して分析力・課題解決力を養う。また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の養成課程を設け、資格取得を支援する。

「化学実験」、「生物化学実験」、「機器分析化学実験」、「食品物性学実験」、「環境物質工学実験」、「生命科学実験」、「食品分析学実験」等の実験科目を軸にアクティブ・ラーニングを実践し、学生の主体的に学び力を向上させる。また、3年次の生命環境化学ゼミナールⅠ・Ⅱを通して生命環境化学分野の最先端の研究テーマに触れ、4年次の卒業研究ではそれまでに学修してきた基礎および専門知識を総合的に応用する力、さらには問題・課題の分析・解決力を向上させる。

■年次別科目の配当方針

1～2年次では、専門科目を理解する上で不可欠な基礎知識を学び、実験を行うために必須の基礎技術を習得する。

2～3年次では、主要な専門科目を学び、物質化学、環境・エネルギー、生命科学、食品の各分野に応じた基礎知識と、実験・実習を通じた応用力を養う。

4年次の卒業研究では、先端の研究方法论を学び、高度な実験技術等により問題を解決する能力を養う。また、研究成果を報告するプレゼンテーション能力や論文作成能力を身に付ける。

■学修成果の評価の在り方

各授業科目の学修内容、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバスにより学生に周知し、それに則した厳格な成績評価を行う。各年次への進級については、学生便覧等に明記された進級条件を満たすことが必要である。2年次終了時には、コア科目を含む各科目の学修到達度を評価して進級判定を行う。3年次終了時には、すべてのコア科目、ならびに専門基礎科目と専門教育科目を含む学修到達度を評価して進級判定を行う。卒業判定は、卒業要件として必要とされる単位数の取得に加え、卒業研究発表会での発表ならびに卒業論文の作成を含め、ディプロマ・ポリシーに基づき総合的に評価して行う。

■コース説明

2年次後期より「生命環境化学コース」もしくは「食品コース」のいずれかのコースに分かれる。「生命環境化学コース」では、基盤化学科目を基礎とし、主に物質化学、環境・エネルギー、生命科学の各分野に関わる科目を履修する。「食品コース」では、基盤化学科目を基礎としつつ、主に食品分野に関わる科目を履修する。